



# 金融商品ガイド

## 「外債」投資の極意は「既発債」を選ぶこと

資家に人気の外債ファンドで国内投信と外国投信を同じ土俵で比較した結果は「と題し、記したとおり。」

多くの人は「投資信託」といえば「国内投信」から選択するものと、テンから思い込んでいる。また、顧客がそう思い込んでいたほうが好都合と判断した場合、売り手はことさらに外国投信には言及しない。「よらしむべし、知らしむべからず」だ。

こうした例は少なくない。外債も同じこと。多くの証券会社では、1品1枚のパンフレットのたぐいは新発債に限って作成されている。そして、外債を買おうと証券会社を訪れた場合、商品に関する説明はまずこの新発債のパンフレットを基に始められることになる。

### 「外債建て債券」とは新発債だけではない

ところが、たいがいの場合、証券会社はその時点で扱っている新発の外債の銘柄数は、ゼロから多くて2、3にすぎない。つまり「発行者」「通貨建て」「期間」の選択肢が限られた、数少ない新発債の銘柄を「買うか」「買わない

か」の選択しかないものと思いい込みがちだ。

だが、こうした思い込みは明らかに不利である。なぜなら、たいがいの場合、証券会社は相当数の既発債を在庫として持っている。一部の証券会社は手持ち銘柄の一覧表を店頭で配布している。そうした既発債をも選択肢に含めることで、初めて「発行者」「通貨建て」「期間」の組み合わせの異なる銘柄を見いだすことが可能となるのだ。

だからこそ、外債投資の際には、既発債をも選択肢に含めて「選択」することを当然と考えなければならぬ。

### 既発債のほうが新発債より高利回り

6月9日時点で募集中の新発債をピックアップしたうえで、それと同等の格付けの発行者、同じ通貨建て、近似する期間の既発債を探すと、表に示すとおり結果となった。さてこの表から何を発見すべきか。

まずなによりも、発行者の格付けと期間がほぼ同じ銘柄間では、総じて既発債のほうが利回りが高いという事実がある。

表に示した新発債と既発債は、6月9日時点で各証券会社のサイトに掲載されている銘柄を横断的にチェックしたうえでピックアップしたものだ。

証券会社ごとに既発債の価格や利回りの情報の更新タイミングは微妙に異なるため、利回りの基準時点が微妙にずれていることを考慮すると、利回りの高いことは認めざるをえないだろう。なにしろ

0.3%から0.5%あるいはそれ以上も違う例があるくらいだ。

言うまでもなく、債券の価格や利回りはいわば手数料込み。つまり、新発債だろうと既発債だろうと同条件である。もちろん購入後の利子ならびに譲渡益や償還差益への税制もまた同じである。

外債購入に際しては、ぜひとも既発債をも含めた広範囲な選択肢の銘柄のなかから選ぶべきであると、あらためて思う。

### 新発債より既発債が高利回り

—「発行者」「通貨建て」「期間」が近似した外債の利回り比較—

発行者	通貨建て	償還期日	期間	利回り(%)	格付け
世界銀行	米ドル	2007年12月11日	2年6カ月	3.11	Aaa
スペイン金融開発公社	米ドル	2007年10月29日	2年4カ月	3.72	Aaa
米国(国債)	米ドル	2008年5月15日	2年11カ月	3.42	-
アジア開発銀行	米ドル	2009年6月9日	4年	3.35	Aaa
米国(国債)	米ドル	2009年4月15日	3年10カ月	3.50	-
米国(国債)	米ドル	2010年5月15日	4年11カ月	3.57	-
スウェーデン地方金融公社	豪ドル	2007年12月17日	2年6カ月	5.11	Aaa
世界銀行	豪ドル	2007年3月27日	1年9カ月	5.12	Aaa
アジア開発銀行	豪ドル	2009年3月27日	3年10カ月	5.38	Aaa
ニューサウスウェールズ財務公社	ユーロ豪ドル	2008年6月6日	3年	4.79	Aaa
スウェーデン王国	ユーロ豪ドル	2008年11月6日	3年5カ月	5.24	Aaa
世界銀行	NZドル	2008年6月11日	3年	5.74	Aaa
世界銀行	NZドル	2007年8月28日	2年2カ月	6.29	Aaa
世界銀行	NZドル	2006年12月8日	1年6カ月	6.18	Aaa

注) 6月9日時点の証券会社サイト掲載銘柄から採録。大字は新発債、それ以外は既発債。NZドルはニュージーランドドル。格付けはムーティーズ社によるもの